

参考資料

防災教育チャレンジプラン

子どもサバイバルキャンプ手引書



平成 23 年 2 月

西大和 6 自治会連絡会

目 次

1. はじめに	2
2. 目的	3
3. 実施経緯	3
4. プログラム	4
5. 計画準備	5
1) 計画推進メンバー	5
2) ペットボトルのランタン	5
3) 子どもの募集	5
4) 班分け	6
5) 大人の支援	6
6. 室内防災研修	7
1) DVD(ビデオ)研修	7
2) 室内防災ゲーム	7
3) ペットボトルランタンづくり	8
4) マイお箸・スプーンづくり	9
5) 室内ゲーム	9
7. 炊き出しのお手伝い	9
8. サクラランタンの集い	10
9. 朝のお手伝い	11
10. 救出用資機材の取扱い訓練	12
11. 水消火器訓練	14
12. 簡易トイレ実技	15
13. 消防自動車放水実技	15
14. 経費	16
15. 成果と今後	17

1. はじめに

平成17年より桜ヶ丘2丁目自治会の活動として行ってきた「子どもサバイバルキャンプ」は、地域の防災活動の一環として代々の自治会長、自治会役員によって引き継がれ、今回で6回目を実施できた。

将来の地域の担い手である子ども達に、少しでも防災に関する基礎知識の習得や、器具等を使用した訓練を通じ、上級生も下級生も協働して縦のつながりで、楽しく遊びながら共同生活や助け合いの大切さを学んでもらうこと願ってきた。

今では、下級生で参加した子ども達が上級生となり下級生に指導的に参加してくれるし、毎年変わる自治会役員よりも良く内容や趣旨を知っていて、大人顔負けの技術も体得している。また、初回に参加してくれた子ども達が、今年は大学生、高校生となり、町内で見かけると頼もしく感じられる。

子どもサバイバルキャンプの内容やプログラムは毎年少しずつ異なる。基本的なものは同じであるが、マンネリ化を防ぐため、毎年新しいアイデアやプログラムを導入している。例えば22年度は、夜はキャンプファイヤーからペットボトルのランタンに変えた。ここで、今までを網羅したものは紹介できないので、平成22年度に行ったものをご紹介します、皆様の参考になると同時に、当事者としても記録としてまとめる。

平成23年2月

2. 目的

子ども(小学生)を対象に、大地震が発生したと仮定して、町指定の一時避難所で一夜を、電気、水道、ガス、電話も通じないという仮定でテントの中で明かし、野営体験をする。同時に、楽しく防災ゲームや防災器具を実際に使って訓練をする。

それらを協働して行い、集団生活の中で防災やお互いの助け合いの大切さを体験してもらう。

また、大人も炊き出しなどを通じて、避難所ではどのような器具やどのようなことが必要となるか検証する。また、地域の方々をお互いに知るといふ、大人の訓練も含まれている。

3. 実施経緯

これまでは桜ヶ丘2丁目自治会単独で行ったが、平成22年度は「防災教育チャレンジプラン」に参加するので、以下の点で例年とは異なった。

- 1) 平成22年3月26日の町長説明会では、町長が会議を招集し、町の関連部署の長を集めて説明した。その中には教育長や教育部長も含まれ、結果、町役場と教育委員会の後援を得る。
- 2) 教育委員会の後援で、対象となる地域の保護者・子どもに学校長から案内文を出してくれた。もちろん自治会や子ども会も案内を出した。
- 3) 最終的に桜ヶ丘2丁目自治会が主体で行ったが、地域の民生・児童委員や社会福祉協議会が研修生も含め、支援してくれた。

また、子ども達は毎年参加するので、マンネリ化しないよう新しい工夫を絶えず考えていたが、今回は奈良県の「安全安心まちづくりチャレンジ事業」の研修会で知り合った樞原市新中町自主防災会の「ペットボトルによるランタン」を是非採りいれようということになり、ご指導を仰ぎに行き、実施した。

5月28日(金)	準備委員会
6月29日(火)	小学校長打合せ
7月8日(木)	新中町防災会「ペットボトルランタン」指導受け
7月11日(日)	準備委員会
8月15日(日)	実行委員会
8月21日(土)	(午後) 「子どもサバイバルキャンプ」実施
22日(日)	(午前) 「子どもサバイバルキャンプ」実施
9月17日(金)	反省会

4. プログラム

- 日 時： 平成 22 年 8 月 21 日（土） 9：30 より（高学年 4、5、6 年生）
13：00 より（全学年）
平成 22 年 6 月 22 日（日） 12：30 まで
- 場 所： 桜ヶ丘東公園グラウンド、桜ヶ丘公民館
(町指定の一時避難所、避難収容施設です。)
- 主 催： 西大和 6 自治会連絡会（実行：桜ヶ丘 2 丁目自治会）
- 協 賛： 上牧町、上牧町教育委員会、上牧町社会福祉協議会
上牧町民生児童委員、西和消防署
- 内 容： 8 月 21 日（土）
10：00～12：00 災害時要援護者模擬避難訓練（誘導搬送）高学年のみ
12：00～13：00 昼食・休憩
13：00～14：00 オリエンテーション 「地震だ！ その時どうする？」ワークショップ
14：00～15：00 室内ゲーム 防災カルタ・防災ビンゴ・SOS(言葉集め)
15：00～16：00 ペットボトルのランタン作り（夜に使います）
16：00～17：00 マイお箸・スプーン作り
17：00～18：00 設営・炊き出しのお手伝い、室内ゲーム
18：00～19：00 夕食
19：00～20：00 防災〇×クイズ
20：00～21：00 桜ヶ丘の明かり（仮称） マスゲーム
21：00～22：00 テント内自由時間
22：00 消灯
8 月 22 日（日）
6：00 起床
6：30 ラジオ体操
8：00～ 8：30 朝食
8：30～ 9：15 自由時間
9：15～10：30 防災資機材実技・簡易トイレ組立て
10：30～11：00 消火器実技
11：00～11：30 バケツリレー
11：30～11：40 消防車放水実技
11：40 片付け
12：30 解散

5. 計画準備

1) 計画推進メンバー

計画推進は桜ヶ丘2丁目自治会の防犯・防災部長が実務のリーダーであるが、準備段階の計画推進には、自治会長、子ども会会長および経験者である元自治会長や元担当者らが随時集まり、内容の検討を行った。

2) ペットボトルのランタン

例年、夜のメインイベントであるキャンプファイヤーが、今年は難しそうであるとのことから、新規制を持たすためにも、以前より県の「安全安心まちづくりチャレンジ事業」に参加して、お知り合いとなった橿原市新中町自主防災会の「ペットボトルによるランタンづくり」を採りいれたらということになり、ご指導を受けに行き、実施した。



ペットボトルランタンで、約7m四方の地上絵と通路の描くため、約700個のペットボトル(2ℓ)を目標に、町内より提供していただき、子ども会と自治会役員とで加工した。

ペットボトルを半分に切って上半分を下に差し込むのであるが、ボトルの形状が不適当なものもあり、約30%は使えなかった。

3) 子どもの募集

今回は桜ヶ丘2丁目にとどまらず、片岡台1, 2, 3丁目および桜ヶ丘1, 2, 3丁目から子どもを募集した。桜ヶ丘2丁目では、恒例となっており、自治会と子ども会が回覧を回すが、他丁は自治会長宛にご案内を出した。さらに、今回は教育委員会の後援を受けたので、小学校より該当地域の保護者と子弟に案内状を出していただいた。

結果、67名の参加者を得た。次頁に各丁の参加者を学年別に示す。
なお、宿泊は高学年(4, 5, 6年生)で低学年は保護者と同泊ならOKとした。

	片岡台1		片岡台2		片岡台3		桜ヶ丘1		桜ヶ丘2		桜ヶ丘3		計		
	男 子	女 子	男 子	女 子	男 子	女 子	男 子	女 子	男 子	女 子	男 子	女 子			
1年生	0	0	0	0	4	1	0	0	2	0	0	0	7		
2年生	3	2	2	0	3	0	3	1	6	1	0	0	21		
3年生	0	1	0	0	2	3	0	0	3	0	0	1	10		
4年生	1	0	1	0	4	0	0	1	1	2	1	1	12		
5年生	0	0	0	0	2	1	0	0	1	1	0	0	5		
6年生	0	0	0	0	2	0	1	1	2	6	0	0	12		
計	4	3	3	0	17	5	4	3	15	10	1	2	67		
														男 子	女 子
日帰り	3	2	2	0	9	4	3	1	11	2	0	1	38	28	10
宿泊	1	1	1	0	8	1	1	2	4	8	1	1	29	16	13

4) 班分け

約70名の子ども達を一同に会して防災器具を使用した訓練をするのは、あまり問題はないが、室内で防災ゲームをするには、低学年・高学年に分ける必要性や部屋の大きさに制限があるので、室内ゲームには学年別の3班とし、1班20数名とした。

宿泊には男子女子別で学年別に、別途班分けを行った。

5) 大人の支援

各丁から保護者か大人を支援者として出していただき、協力して頂くのが筋であるが、今回は桜ヶ丘2丁目自治会の防犯防災部と子ども会が主体で運営し、参加集の多かった地区片岡台3丁目の保護者の方と同地区の民生児童委員に協力して頂き、参加頂いた。

大人の支援は、女性が食事の準備、買い出しと炊き出しが主である。男性は、設営、テント張り、野営の見張りである。トイレは公園に穴を掘り、仮設とする案も出たが、そこまではということで、夜間も公民館のトイレを、明かりも適切にとり、トイレの隣の和室には、例年、複数の女性役員が仮眠をとり、万全を期した。

一部地区の子どもは、傷害保険に入っておらず、サバイバルキャンプのためのイベント保険に入ってもらった。

例年夏休みに行うので、熱中症や水分補給には神経をとがらせた。氷や麦茶は、買い増しに出るのが通例である。また、身体を冷やすため、屋外と室内を交互に使分けよう工夫もした。

社会福祉協議会も協力頂き、その大学生の実習生が子どもの相手をしていただいた。

6. 室内防災研修

1) DVD(ビデオ)研修

例年、DVDやビデオで地震災害の恐ろしさを映し、でも事前に対応しておけば大丈夫というようなストーリーで説明し、プログラムをスタートする。初めの頃は、日本の大地震の記録など、少し難しい内容のものを放映した。これはニュースのようなもので、子どもにはあまり反応がなかった。前年度は、津波について、和歌山県教育委員会と近畿地方整備局の制作したものをお借りし放映した。これは5年生を対象としたものであった。奈良県では津波がないが、子ども達は将来どこへ行くか分からない。また海水浴にも行くであろう。放映後子ども達に聞くと、ほぼ全員が海水浴に行ったことがあるが、津波については、あまり知識がないようであった。今回は県からお借りしたDVD「地震だ！その時どうする？」を放映し、その後、理解度を確認するためワークショップをクイズ形式で行った。全員が正解であった。



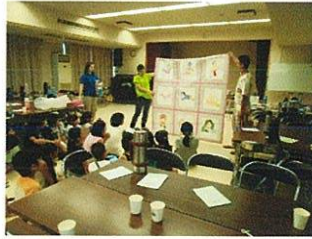
2) 室内防災ゲーム

例年防災カルタ、防災双六、本読み等行っている。まだ日中は暑いので、部屋の中で行っている。今年は参加者が多いので3班に分け、3つの部屋でそれぞれ違ったゲームを行い、ローテーションを組んだ。

S.O.S. (言葉集めゲーム、今回初)、防災カルタ(例年)、防災ビンゴゲーム(今回初) 防災カルタは高知県のをダウンロードさせて頂き、手製で作成した。アンパンマンが主人公なので結構人気がある。防災ビンゴゲームは先ずゴールに描かれた絵の説明から行った。



防災ビンゴゲーム



防災カルタ



3) ペットボトルランタンづくり

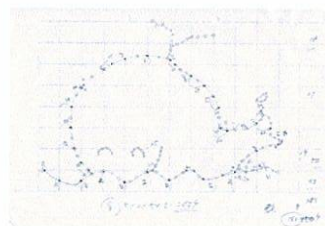
新規に新中町防災会で教えて頂いたペットボトルランタンを子ども達にも作成してもらった。子ども達で約 100 個を作成。



大人は事前に約 700 個作成済みで、それら明るいうちに配置。

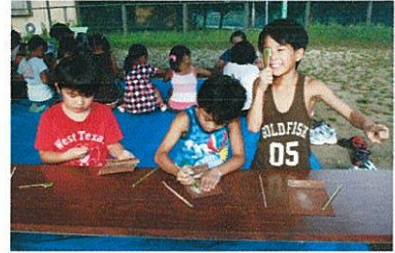


地上絵はいくつかの案から、約 7m 四方のお星さまと「くじら」とした。



4) マイお箸・スプーンづくり

何ものなしで避難所へ来たので、お箸もない。そこで切りだしてきた竹で、お箸とスプーンを作る。当初は子どもにもヨキやナイフを渡していた。やはり指を切る子どもも出てたので、大人が粗で作成し、子ども達には紙やすりで仕上げさせた。その後、マジックで自分の名前を書き、洗っても持ち主が分かるようにした。毎年評判が良く、家に持って帰る子どもが多い。



5) 室内ゲーム 宝探し



夕食の準備ができるまで なぞなぞ



本読み



7. 炊き出しのお手伝い

今回子どもにも手伝わせた。ほとんどの子は火の燃やし方を知らない。



もうすぐ出来上がり



楽しい夕食



残りは明日のおにぎり



防災〇×クイズ

夕食後、暗くなるまでゲームを。

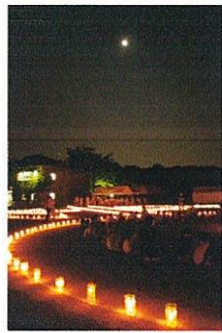
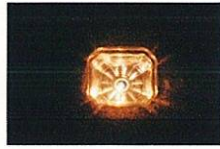
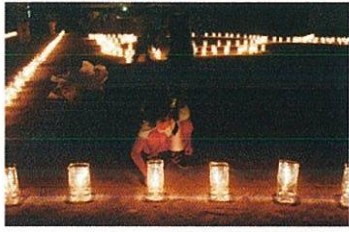


8. サクランタンの集い

後日、ペットボトルのランタンのネーミングを子ども達に募集した。

結果、小学4年生の子が、桜ヶ丘2丁目とランランということで、サクランタンを提案し、採用された。





9. 朝のお手伝い

おはよう



片付け



ラジオ体操



自由時間



朝のお手伝い



朝食



教育長挨拶



10. 救出用資機材の取扱い訓練

ジャッキの使用方法



バールの使用法



チェーンソー実技



発電機・投光器実技



担架実技



人間担架



一輪車競技



リヤカー競技



11. 水消火器訓練



バケツリレー



消防署の小父さんの講評



12. 簡易トイレ実技



13. 消防自動車放水実技

毎年、皆、ずぶ濡れでお開きです。



14. 経費

消耗品	ローソク	10	個	3,980
	特殊はさみ	3	個	4,336
	フッシュハンマ	1	個	900
	ローソク クリオ	1	式	2,370
	ローソク	1	式	2,371
	紙ヤスリ	1	式	2,736
	上牧指定ごみ袋	1	式	450
	ホーミング	1	本	198
	ホーミング	2	本	367
	透明プラスチックコップ	1	式	990
	透明プラスチックコップ	1	式	592
	ローソク 植物ローソク	1	式	1,347
	ローソク クリオ 60	1	式	856
	吊り下げ式線香	1	式	5,405
	乾電池	1	式	4,708
	乾電池 単3	1	式	2,754
	小計			34,360
食料品	食料品	1	式	29,286
	無洗米	1	式	13,474
	無洗米	1	式	10,020
	カレーのルー	1	式	8,127
	わかめ、ゴマ塩	1	式	4,024
	小計			64,931
飲み物	飲料水	1	箱	3,264
	ホカリスエット	1	式	7,308
	氷	1	式	3,522
	かりかり君	1	式	4,400
	かりかり君	1	式	4,000
	氷	1	式	2,800
	飲み物等	1	式	9,551
	飲み物等	1	式	5,509
	小計			40,354
	合計			139,645

15. 成果と今後

- ・ 今回は例年より子ども参加募集を近隣町内に広げたので、例年の倍に近い67名の参加者があった。このことは子供たちにとって魅力を感じているものと思われる。
- ・ 「子どもサバイバルキャンプ」に新たな取組みの「災害時要援護者避難訓練」をドッキングさせたため、小学生にとって新鮮であったと思う。
- ・ 防災ゲームは工夫して3～4種を行った。また「要援護者避難訓練」も「防災ゲーム」も頭と体を使って覚え、総合的に体得してくれたものと思う。
- ・ 「水消火器訓練」は毎年行っている。低学年から行っているの、高学年（4、5、6年生）は大人より上手になっている。
- ・ マイ箸・マイスプーンづくりも昨年よりはよくなっている。
- ・ 新規に取り入れたペットボトルのランタン「サクランタン」が幻想的で良かったと周辺の方々からも評価を頂いた。今後しばらく続行しても、絶えず新しい工夫を取り入れていく。

アンケートから見ると、子ども達は、みんなと共同で遊んだり、学んだりしたことが楽しかった、良かったというものが多く、他丁の保護者からも「とても楽しかったようです。来年も参加できると嬉しいです。」と評価を頂いた。「防災に関するゲームを通して知識を得たり、子ども達を縦割りのグループに分けて、協力させたりしたことが良かった」というご意見も頂いている。

6年の継続により、初回に参加した子ども達は今年大学生や高校生になり、将来の担手は着実に育っていると考えられる。成果として、これまで行ってきた訓練が 目的に近づきつつあると思う。

今後は「災害時要援護者避難訓練」と「子どもサバイバルキャンプ」を同時に行うことを継続していくが、小学生のほか、できれば中学生の参加を求めている。